

考えを伝え合って深めよう（５年）

どちらを選びますか

〈討論会をしよう〉〈コラムを書こう〉

●指導目標

- ◎ 計画的な討論会をとおして意見をはっきり述べ合ったり、意見をコラムにまとめたりして自分の考えを深める。
- テーマに対して理由をはっきりさせて自分たちの意見をまとめ、討論会（ディベート的な話し合い）を行う。
- 自分の考えが相手にはっきりと伝わるように、表現方法を工夫して書く。

●教材について

本単元は、「どちらを選びますか」をテーマとして、話す・聞くの学習として「討論会をしよう」、書くことの学習として「コラムを書こう」で構成され、「話す・聞く」と「書く」を関連づけながら学習する構成である。

（１）言語活動：ディベート的な話し合い

「討論会をしよう」はディベート的な話し合いに取り組む学習である。立場をはっきりさせ、意図を考えながら聞いたり、根拠を明らかにして主張を述べたりする力を養うことができる。目的、立場、場、方法、評価がはっきりしていることから意欲的に取り組める言語活動である。

子供たちは初めてディベート的な話し合いに取り組む。そこで、単元前半は教科書の例を共通論題として指導して討論に慣れさせていく。後半は討論会実施に向けて、二つの論題を決めて四つのグループを編成し、分担や協力をしながら活動できるように指導する。

（２）論題

話し合う内容「論題」を、三つに分類してみる。

- 事実論題…事実であるかどうかをテーマとするもの
- 価値論題…よいか悪いか、正か誤か、役立つか否か、必要か不必要かをテーマとするもの
- 政策論題…学校や社会の仕組み・政策などをテーマとするもの

（岡本明人『授業ディベート入門』明治図書 1992 年、『話すこと・聞くことの学習指導』光村図書 2001 年）

音声言語指導の研究に長年携わってきた高橋俊三氏（前群馬大学教授）は、「ディベートの論題の条件」として、以下の六点をあげている。（『国語科話し合い指導の改革』明治図書 2001 年）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| (1) 二極に分断され、中間がないこと | (4) 感情移入がないものであること |
| (2) 二値以外、他の考えがないこと | (5) 子供たちの興味・関心や程度に合うこと |
| (3) 両者の関係が対等であること | (6) 文化的背景のあるものであること |

また、「両者がある程度資料がそろえられること」も条件として考えられる。

まず教師から教科書の例を含め幾つか論題を提示する。次に児童に思いついたものを発表させる。論題ごとに「自分は肯定派か否定派か」を挙手させて傾向を確かめる。その後話し合って、多くの児童が興味・関心をもち、対等な状態になるもの二つを討論会の論題として決定したい。

（３）グループ編成

論題決定後、児童に論題と肯定派・否定派の希望順位を書かせる。①希望、②男女混合、③話す・聞く力、④人間関係の四点を考慮しながら教師が調整してグループを編制する。本来の話し合いでは自分が正しいと思うことを主張するが、ディベート的な話し合いでは自分の意見とは違う立場で主張する場合もある。単元の学習のねらいを認識させたうえで取り組ませていきたい。

なお、討論会の運営には、司会や計時係などが必要である。各グループの中から決めておき、準備や練習の段階で指導しておきたい。

(4) 話すこと・聞くこと

「立論」で「①立場②根拠の数③小見出し④根拠の具体内容」の組み立てで、「最終弁論」で正当性を強調する述べ方を学ばせたい。また、メモを取らせることで意図を考え整理しながら聞く力を高めたい。単元全体を通じて論理的に考える力を養い、今後の話し合い活動に生かしていきたい。

(5) コラムを書こう

討論の経験を生かして根拠を明確にしながら文章に書き表す学習である。対応する価値をもった事柄の長所や短所を比較検討し、その思考過程と結果を文章に書くことで、思考がより具体的になり焦点化され、読み手を納得させるコラムになる。論理的に伝える文章表現力を養いたい。

●学習指導計画（全 12 時間）

展開	時・過程	学 習 活 動	留意点・評価規準
第一次（6時間）	第1時 課題をつかむ	○ 手紙か電話のどちらを選ぶか発表し合う。 ○ 討論会の流れと学習のねらいを知る。 討論会をととして、自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりする力を高めよう。 ○ 今までの話し合いを振り返り、課題を発表し合う。	○ 意欲を喚起し、簡単に理由に言わせる。 関：話し合いの課題を明らかにしようとしている。（発言、ノート）
	学習の見通しをもつ	○ 学習計画を立てる。 (1) 共通論題で討論の練習をする。 (2) 論題決定・グループ編成→準備・練習。 (3) 討論会の実践。	○ 共通論題で練習することを知らせる。 関：討論会に関心を示している。（観察）
	第2時 論理的な考え方を高める表現の工夫	○ 共通論題で立論の作り方を知り、話し方を練習。 (1) ブレーンストーミングで考えを出し合う。 (2) リンクマップを作って考えを整理して書く。 (3) ナンバリングとラベリングの仕方を知る。 (4) 立論（肯定側・否定側の両方）を立論メモに書く。 (5) 話し方の練習をする。	関：考えを出したり整理したりしている。 (ブレーンストーミングシート、リンクマップシート) 話：立論を書き、話す練習をしている。 (立論メモ、観察)
	第3時 全体の場での試行によってイメージをもつ	○ 模擬討論会を行い、進め方や聞き方を知る。 (1) フォーマット（流れ）、ルールやマナーを知る。 (2) フローシートの活用の仕方と聞き方を知る。 (3) 模擬立論を聞き、フローシートにメモをする。 (4) 質問・応答の仕方を知る。 (5) 模擬質問・応答を聞き、フローシートにメモ。 (6) 最終弁論の仕方を知る。 (7) 模擬最終弁論を聞き、フローシートにメモ。 (8) 判定・講評の仕方を知る。 (9) 模擬判定・講評。	○ 事前に、司会、計時係、模擬チームに練習させておく。 ○ VTR教材があれば、そちらを活用することもあり得る。 関：討論会の流れがわかり、聞きながらメモしている。 (観察、フローシート)

第二次 (6時間)	第4時 個々の試 行で表現 を高める	○ 共通論題で三人一組みでの討論をする。 (1) 三人一組みを作り、肯定派・否定派・審判の役割を決めて各組みで討論①を行う。 (2) ローテーションして立場を変えて討論②を行う。 (3) ローテーションして立場を変えて討論③を行う。	○ 教師が進行する。 話聞：立場に応じて、考えを述べたり聞いたりしている。 (フローシート、自己評価表、審判判定表)
	[学活・総合] 情報収集 表現の工夫	○ 討論会で話し合う論題を二つ決める。 ○ グループを作る。(5～6人グループを四組み) ○ グループごとに役割を分担し、準備や練習をする。 ・ブレインストーミング・リンクマップ作り・リサーチ・立論・作戦・話し方 ○ 司会、計時係、審判長を分担し、進め方を確認。	- 関：協力して準備・練習している。(観察) - 話合：計画的に話し合っていて準備・練習している。(観察、計画表)
	第5・6時 本時① 5/12 実践 振り返り	○ 討論会を行う。 (1) 第1論題の討論会を行う。 (2) 自己評価や感想を書く。 (3) 成果や課題を確かめる。	○ 実践後、感想を発表させながら講評し、学習の成果や課題を認識させていく。 話聞：根拠を明らかにし、組立てを工夫して考えを話したり、意図を考えながら話を聞いたりしている。 関・話合：立場や意図をはっきりさせ、友達の意見を尊重しながら話し合おうとしている。(観察、発言、フローシート、自己評価表、審判判定表) 関：よかった点や改善点を書いたり発表したりしている。(振り返りカード、発言)
	第1時 課題を つかむ	○ 教材文を読み、コラムの特色を知る。 ○ コラムの書き方をノートに書きまとめる。 ○ 学習のねらいを知る。 討論会を通して考えた意見をコラムに書こう。	書：コラムの書き方の要点を書いている。 (ノート)
	学習の 見通しを もつ	○ 学習計画を立てる。 (1) コラムを集め、話題や表現について調べる。 (2) コラムの書き方の工夫を調べる。 (3) コラムを書く。 (4) コラムを読み合い、感想を交流し合う。 ○ 興味や関心のあるコラムを集めておく。	関：コラムを集めてこようと意欲を示している。(観察)
	第2時 情報交換 題材選定	○ 持ち寄ったコラムを、グループごとに読み合う。 ○ コラムの特色でわかったことを発表し合う。 ○ 興味をもった話題について考えをまとめる	書：自分のコラムの話題を選び、考えを書いている。(ノート)
	第3時 構想	○ 教材文を読み、書き方の工夫を調べる。 ○ 発表し合い、書き方の工夫を整理する。 ○ 自分のコラムの構想を立てる。	書：書き方の工夫や構想を書いている。 (ノート、構想表)
	第4時 実践	○ 構想表を読み、見直す。 ○ 構想にしたがってコラムを書く。	書：コラムを書き上げている。(コラム)

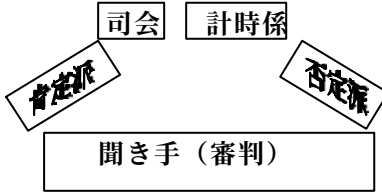
第5時 表現の工夫 推敲 本時②11/12	○ コラムの書く時の注意を想起する。 ○ 数名のコラムを読み、表現の工夫を話し合う。 ○ 推敲の観点を確認する。 ○ 自分のコラムを読み直し、推敲する。	○ 前時の作品から選んでおく。 関：繰り返し読み直し、推敲している。(観察)
第6時 交流 振り返り	○ 教材文を読み、コラムの読み方を知る。 ○ 友達のコラムを読み、感想カードを書く。 ○ 自分への感想カードを読み、コラムを読み直す。 ○ 考えを伝え合うことの学習のまとめをする。	書：友達のコラムの良さを見つけて書いている。(感想カード) 関：単元で学んだことを書いている。(ノート)

●本時の展開①（本時 5 / 12）

目 標

- 根拠を明らかにし、組立てを工夫して考えを話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞いたりすることができる。
- 自分の立場や意図をはっきりさせ、友達の意見を尊重しながらすすんで話し合うことができる。

●展開例

学 習 活 動		指導上の留意点	評価・支援
1 単元の学習のめあてを確認する。		○ 討論会の座席隊形で授業を始める。	
討論会をととして、自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりする力を高めよう。			
2 今までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。		○ 話す・聞くめあてを確かめる。	
討論児童	○ 結論、根拠の数、小見出し、説明の順にはっきりと話す。 ○ 考えと根拠の関係や質問・反論を考えながら聞く。		
審判児童	○ 判定表に基づき、どちらが説得力があるかを公平に聞いて判定する。		
		○ 互いの意見を尊重し合うことにも留意することを確かめる。	
3 討論会を行う。 討論会の流れ〈フォーマット〉		○ 討論グループ以外の児童に司会や計時係、審判を担当させる。	話：根拠を明らかにし、組立てを工夫して話している。（発言、自己評価表、審判判定表） 聞：話し手の意図を考えながら、話の内容を聞いている。（フローシート、自己評価表） ◆ 書けない児童に助言する。 関・話合：立場や意図をはっきりさせ、友達の意見を尊重しながら話し合っている。（観察、自己評価表）
(1) 肯定側の立論 2分30秒 (2) 否定側の立論 2分30秒 (3) 作戦タイム 4分 (4) 否定側からの質問（含：応答） 4分 (5) 肯定側からの質問（含：応答） 4分 (6) 作戦タイム 4分 (7) 否定側の最終弁論 2分 (8) 肯定側の最終弁論 2分 (9) 判定、講評		○ 立論資料は発表後に掲示する。	
		○ 1回めの作戦タイムでは、相手の立論の①筋道②根拠③資料の正しさを確かめる質問を考えさせる。	
		○ 作戦タイムの間に、審判児童にできる分の判定やコメントを書かせる。	
		○ 2回めの作戦タイムでは、相手の立論や応答をふまえて自分たちの正当性を強調して述べられるように相談させる。	◆ 教師の講評で話し方や聞き方のよかった点や改善点に気づかせる。
		○ 審判児童に判定表に基づいて判定を考えさせる。その間、討論児童に観点にそって自己評価させる。	
		○ 審判長は講評を述べる。その後、審判全員に判定カードをあげさせ、その数で勝敗を決する。	
☆座席隊形			
			
4 討論会を振り返り、よかった点や改善点を話し合う。		○ 「(9)判定・講評」で書いた「自己評価」や「判定表のコメント」をもとにして発表させる。	
○ 話し方 ○ 聞き方 ○ 審判の判定 ○ 態度		○ がんばりを認め合ったり改善点に気づかせたりしたい。	
5 次時の学習を確認する。			

●本時の展開②（本時 1 1 / 1 2）

目 標

- 友達の作品を読んで表現の工夫を見つけ、自分のコラムを読み直して推敲することができる。

●展開例

学 習 活 動	指導上の留意点	評価・支援
1 本時のめあてを確認する。		
友達のコラムを読んで表現の工夫を見つけ、自分のコラムを読み直して推敲しよう。		
2 コラムを書く時の注意を確認する。 ○ 文末の書き方をそろえる。 ○ 事実と意見・感想を区別する。 ○ 根拠や理由をはっきり書く。 ○ 結論の導き方を工夫する。 ○ 適切な言葉を使う。	○ 既習事項を想起させる。 ○ 時間をかけすぎずに確認する。	関：コラムを書く時の注意を発表している。（発言、態度、自己評価カード） ◆ ノートや掲示物を確認させる。
3 友達のコラムを読み、表現の工夫を話し合う。 (1) 工夫やよい点を見つけて線を引く。 (2) 話し合う。 〔予想される児童の反応〕 ・書き出しを工夫している。 ・比べながら書いている。 ・具体的な例が書かれている。 ・理由が納得できる。 ・筋道の立て方が工夫されている ・最後に自分の考えをまとめている。	○ 前時に書いたコラムから 2～3 人分を選び印刷して配布する。 ○ O H P で作品を投影し、発表された箇所に線を引いていく。 ○ 予想される工夫内容は、あらかじめ短冊に書いておき、黒板に貼付していく。	書：表現の工夫や良い点に線を引いたり発表したりしている。（プリント、発言、自己評価カード） ◆ 見つけられないでいる児童に例を示す。
4 推敲の観点を確認する。 ○ 表現の工夫 ○ 誤字や脱字はないか。 ○ 句読点を忘れていないか。 ○ 改行の仕方が正しいか。	○ 「表現の工夫」の具体例として、学習活動 3 の板書を指し示す。 ○ 模造紙に書いておいたものを黒板に貼付し、時間をかけすぎずに確認する。	
5 自分のコラムを読み直し、推敲する。	○ 推敲の観点が偏らないように、観点ごとに何度も繰り返して通読・推敲させる。 ○ 変更が少ない児童には清書に進ませる。 ○ 自己評価カードに記入させる。	関・書：繰り返し読み直し、よりよく書き直している。（観察、コラム、自己評価カード） ◆ 事前に各児童のコラムを確認し、様子を見て助言する。
6 本時の学習を自己評価する。		
7 次時の学習を確認する。		

討
 論
 会
 で
 話
 し
 合
 っ
 論
 題
 を
 決
 め
 よ
 う

年
 組
 番

No	分類	論 題 の 例		A 肯定	B 否定
1	教科書の例	遠くにいる友達の誕生日に、お祝いの気持ち伝えるのに、 手紙がよいか、電話がよいか。		手紙	電話
2		物語を味わうには、テレビより本がいい。		本	テレビ
3		遊びに行くなら、海がいいか、山がいいか。		海	山
4		使うなら、えん筆がいいか、ノック式えん筆がいいか。		えん筆	ノック式えん筆
5	価値論題	動物園の動物は、野生の動物よりも幸せである。		動物園	野生
6		兄弟は、上より下のほうが得である。		上	下
7		朝食はパンがいいか、ご飯がいいか。		パン	ご飯
8	政策論題	小学校のサッカーの授業では、チームを男女別にしたほうがよい。		男女別	男女混合
9		五年一組は、学校でのシャープン使用を認めるとよい。		認める	認めない
10		五年一組は、毎日、席を自由にするとよい。		自由席	固定席
11		〇〇市内の小学校は、教室にクーラーを設置するとよい。		設置する	設置しない
12		学校週五日制をやめ、六日制にもどしたほうがよい。		六日制	五日制
13		〇〇小学校では、自転車通学を認めるとよい。		認める	認めない
14					

価値論題：「どちらがよいか」を話し合う。
 政策論題：「実施してはどうか」を話し合う。

ブレインストーミング シート

年 組 番

論題

上の論題について思いついた「肯定(うてい)側の理由として考えられること」「否定(ひてい)側の理由として考えられること」を、かじよう書きで書きましょう。

「いいか悪いか」「役に立つか」を迷わずに、
順序も気にせず、思いつくことをどんどん書こう！

肯定(うてい)側の理由 として考えられること	否定(ひてい)側の理由 として考えられること

「肯定」…物事をみとめること。同意すること。

「否定」…打ち消すこと。みとめないこと

審判判定表

判定者 年 組 番

評価の観点		肯定側					否定側										
フォーメット																	
立論	○ 説得力のある意見や理由が出たか。	【質問側】 ○ 質問のねらいがはっきりしていたか（有効だったか）。 ○ かかわりのある質問を続けていたか。	【応答側】 ○ 質問内容からはずれずに答えていたか。 ○ できるだけ短く、すぐに答えていたか。	○ 相手の意見を取り入れながら、説得力のある意見を述べたか。 ○ 聞いていて、すじ道が通っていて、わかりやすかったか。 ○ 声の大きさや速さ、間の取り方、話す態度がよかったか。	○ 一生けん命に取り組んでいたか。 ○ チームワークがよかったか。	①	1	2	3	4	5	②	1	2	3	4	5
	③					【応答】←	③	【質問】									
	④					【質問】→	④	【応答】									
肯定側 質問						1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
	最終 弁論					⑥	1	2	3	4	5	⑤	1	2	3	4	5
		総合					⑦	1	2	3	4	5	⑦	1	2	3	4
コメント					合計・判定					点							
肯定側のよかった点					否定側のよかった点					点							
改善したほうがよい点					改善したほうがよい点					点							
☆ 同点になってしまったら、総合的に見て勝ちを決めよう。（引き分けはありません） ☆ 勝ったほうに○をつけよう。																	

討論者 自己評価表

年 組 番

1	意見や理由を、はっきりわかりやすく話せたか。	よかった点や反省点	
2	声の大きさや速さ、間のとり方に気をつけて話せたか。		
3	話し手の伝えたいことやそれに対する意見を考えながら、聞いたか。		
4	態度・チームワークはよかったか。		

年 組 番

☆相手の側 立論・質問・最終弁論 … 聞きながら書く。

☆自分の側 立論 … 前もって書いておく
質問・最終弁論 … 作戦タイムに書く。

立論メモ

年組番

はじめ	立場	論題「 」に、賛成（反対）です。					
	根拠の数	その理由は、□つあります。					
なか	小見出し	第一					
	説明						
	小見出し	第二					
	説明						
	小見出し	第三					
	説明						
	小見出し	第四					
	説明						
終わり	立論のまとめ	このような理由から、私(たち)は、「 という論題に賛成（反対）します。 」					

リンクマップ シート

年 組 番

